

釣漁業の指導について

伊禮 勇雄

1. 普及の経過

本県で釣漁業の先進地区と云えば糸満地区で、この中でも深海立延縄漁業は盛んである。この漁業での漁獲量は、この地区の全漁獲高（12億円）の40%を占めている。

この漁具・漁法は立縄釣と延縄釣の折衷型で、昭和49年に伊江漁協の組合員が鹿児島県で先進地視察によって導入した漁具・漁法であり、その後糸満地区を中心に他地区へ普及された漁法である。

普及後、糸満地区では現地に適応化できるよう漁具の改良を何回となく重ね、又1人乗り操業方法や2～3人乗り操業方法など漁具・漁法の技術的な面について、創意工夫し漁獲高を順調に伸ばして来た。

この成果については、昭和50年度漁村青壮年婦人活動実績発表大会で紹介され、ある程度他の地区に普及されたものの釣漁業の進んでいない地区では、この漁業を受け入れられない要因があった。

その要因とは、釣漁業全般にも云えるが、(1)この漁具・漁法に対する技術的な未経験、(2)従来の漁業との組み合わせや考え方、(3)漁業者自身の意欲、(4)その他地域の漁船規模や装備などのいろいろな要因があった。

この様な状況の中で養殖漁業（モズク）は着実にこれらの地区へ普及し、技術的にも確立され生産高も大きく伸びては来たが然しここ最近のモズク値の低迷はこれらの地区の漁業者に大きく影響を及ぼした。

この様な事から、各地区で釣漁業への関心がにわかに高まり学習会や乗船実地の指導の要望があった。特に国頭漁協からは次の様な目的で指導要望があり、深海立延縄漁具・漁法の学習会、漁具製作の実習乗船実地を実施した。

- (1) 今後漁業経営の在り方としての釣漁業と養殖漁業の複合的経営を進める。
- (2) 地先釣漁場の有効利用と確保
- (3) 網漁業で獲れる魚安値から脱皮し、釣漁業で獲れる高級魚の漁獲
- (4) 漁業後継者の育成を図る

2. 指導概要

- | | |
|------------|------------------------|
| (1) 実施地区 | 慶佐次、安田、辺土名 |
| 実施期間 | 昭和57年2月22日～26日（5日間） |
| 実施方法 | |
| イ. 学習会 | ……深海立延縄漁具・漁法の構成について説明 |
| ロ. 漁具製作の実習 | ……針、ナイロン糸、縄の結索や構造物の取付け |

ハ、乗船実地……………乗船実地場所については図-1を参照

(4) 参加人員 延人員62人

(5) 使用漁船 充丸(玉城亀助)4.11トン

(6) 協力機関及びグループ名

糸満漁協、糸満漁協青年部、国頭漁協、国頭村役場、東村役場

3. 指導内容

(1) 学習会(参加人員 35名)

この技術指導をするにあたって、国頭村立農民研修所で全般的な釣漁業の説明や情報を提供し、特に糸満地区で成果をあげている深海立延漁具・漁法の構成と実績について学習した。

(2) 漁具製作の実習(参加人員 35名)

釣針の結び方、ナイロン糸とナイロン糸の結び方、ナイロン糸や縄の取り方、カゴの作り方、その他漁具品(サルカン、スナップ等)や浮子及び沈子の取り付けなどを指導し、全体的な漁具製作を終えた。

(3) 乗船実地(参加人員 27名)

イ、1日目(2月23日、参加人員 9名)

慶佐次港より約6.3マイル南東沖漁場において、水深160~180メートルに1漁具(針200本)3回投縄したが、大時化の中思うように操業ができなかった。

然し、当初の目的であるこの漁具の瀬や潮の流れに対する縄の入れ方や揚げ方などの操業方法について、ある程度指導することができた。

漁獲物はおおだい(ヒチューマチ)やほおきはた(オーナシミーバイ)で約13kg釣獲した。

ロ、2日目(2月24日、参加人員 11名)

安田漁港より約5マイル東沖漁場アダキグワ外ソネにおいて、水深170~200メートルに1漁具(針200本)1回投縄したが、前日同様時化のため、漁場を安田漁港より約6.1マイル南沖(水深150~200メートル)に移動し2回投縄した。

漁獲物はおおだい(ヒチューマチ)、しまおおだい(シルシチュー)、たい類で約35kg釣獲した。

ハ、3日目(2月26日、参加人員 7名)

海上はなぎで、辺土名漁港より約9マイル北西沖漁場クインソネ外において、水深190~210メートルに1漁具(針200本)を投縄した。

その日は快晴で手応えも十分で3回投縄した結果、おおひめ(マーマチ)、ひめだい(クルキンマチ)、きんめひめだい(キンミーマチ)が主に釣獲され約65kgであった。

4. 結果

周年、網漁業と矛突漁業の漁業形態の大半を占めている3地区(慶佐次、安田、辺土名)の漁業者は沿岸地域(リーフ内)の漁業資源の減少に苦慮しているものの、釣漁業の技術的な面が知

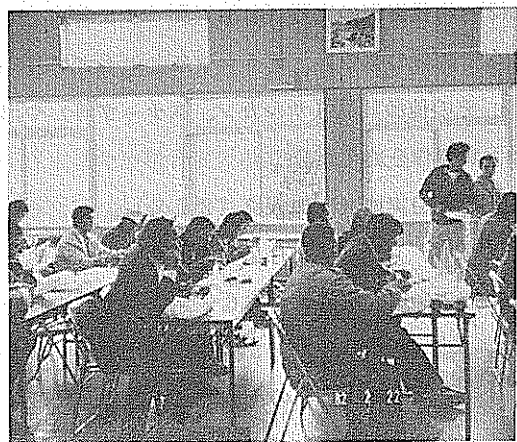
らず、しかも地先釣漁場は他地区の漁船に利用され何とか自分達も沖合へ行き釣漁業したいと望んでいるが、いろいろな要因が重なり従来の漁業に固執し抜けきれない状態である。

今回ある程度釣漁業の技術と知識を普及したものの、まだまだ不十分であるがその後3地区の漁業者から資材購入の問い合わせや、又糸満漁協より資材を購入し早速漁具製作をはじめており、釣漁業への意欲をみせている。又、国頭漁協青年部と東村役場から昭和57年度は曳縄釣漁業の学習会と乗船実地の指導の要望がある。

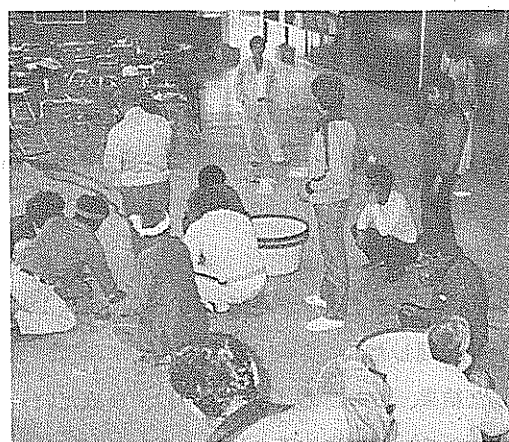
図の説明



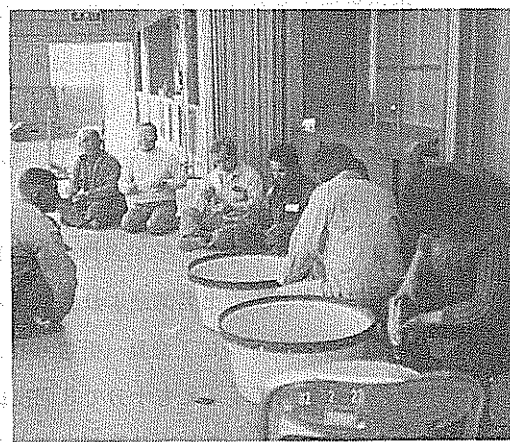
(1) 国頭村立農民研修所で釣漁業の学習会風景



(2) 参加人員35名(2月22日) 真剣な表情



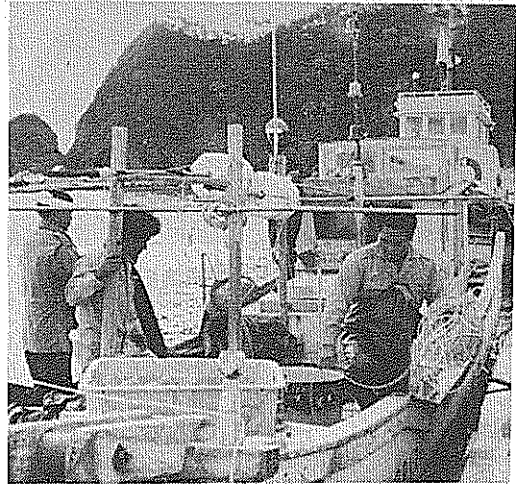
(3) 午後から深海立延縄漁具の製作



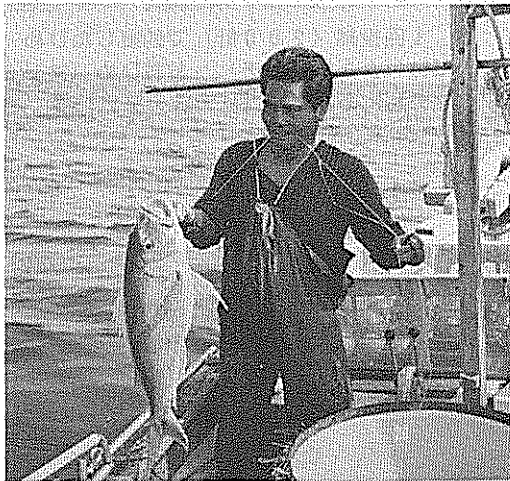
(4) 漁具製作に皆一生懸命頑張ってます



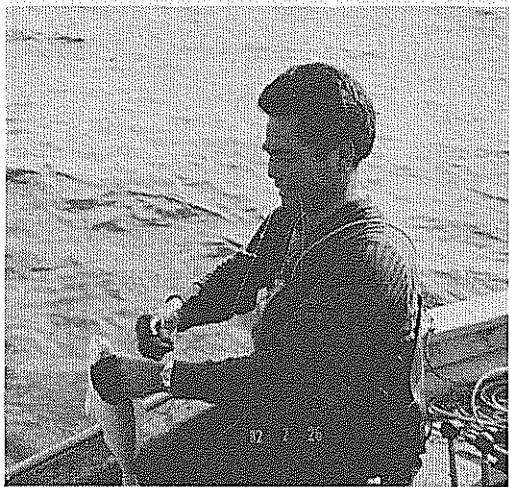
(5) 出港準備に余念のない漁業者達



(6) 出港準備OK (2月24日 安田漁港にて) 糸満漁協玉城龜助氏所有、充丸4.11トン



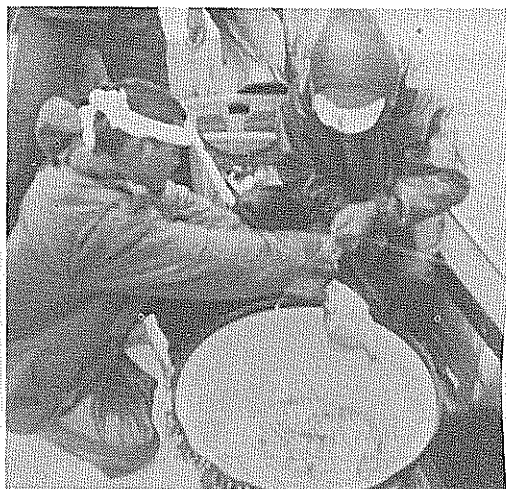
(7) 船主玉城龜助氏による大物ぶり、きんひめだい (キンミーマチ)



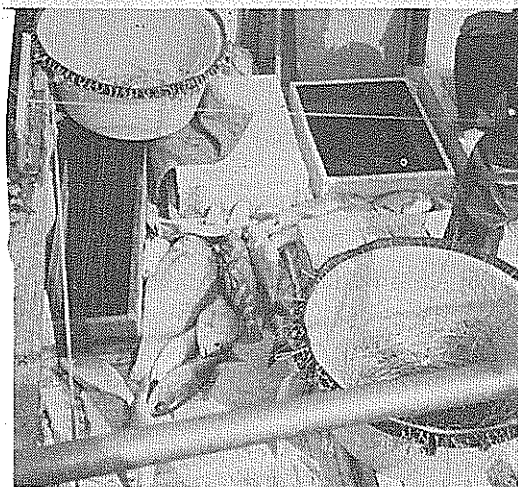
(8) 辺土名と伊是名島の水深1.90m～2.10m漁場での乗船実地指導 (2月26日)

沖縄県漁業振興センター

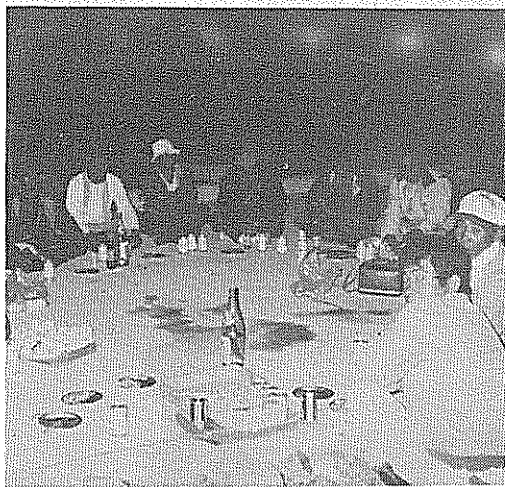
沖縄県漁業振興センター



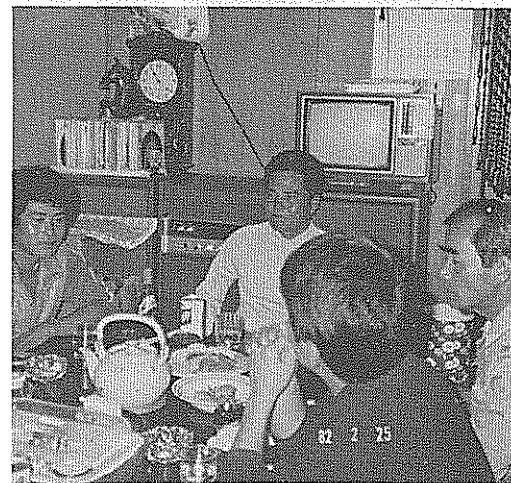
(9) 実際に経験をやる国頭漁協の組合員



(10) 1回投縄(200針)で釣獲したひめだ(クルキンマチ)、おおひめ(マーマチ)、あおだ(ヒチューマチ)等



(11) 乗船実地の結果についての反省会

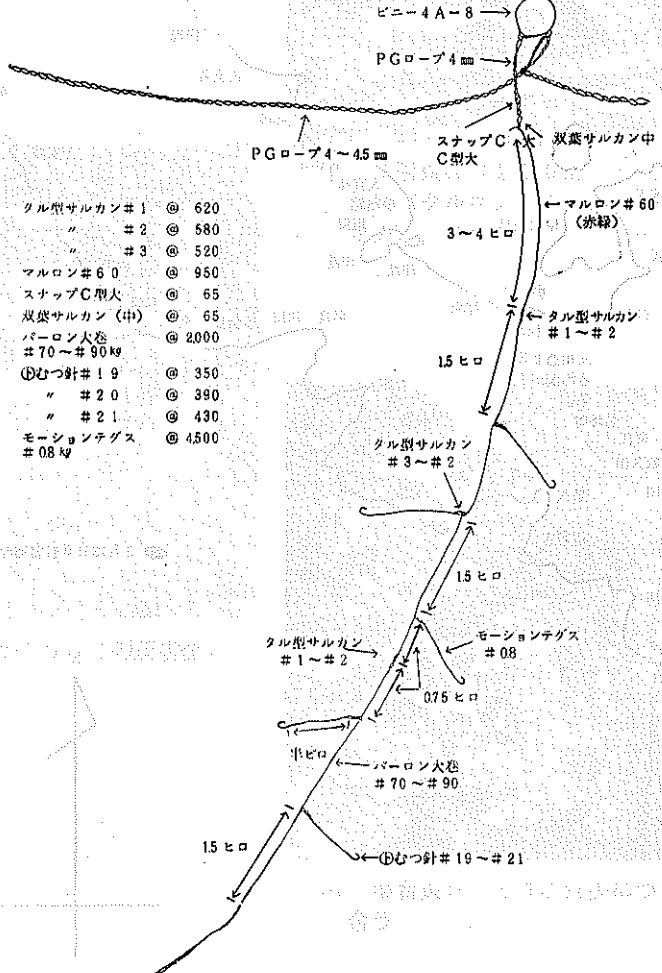
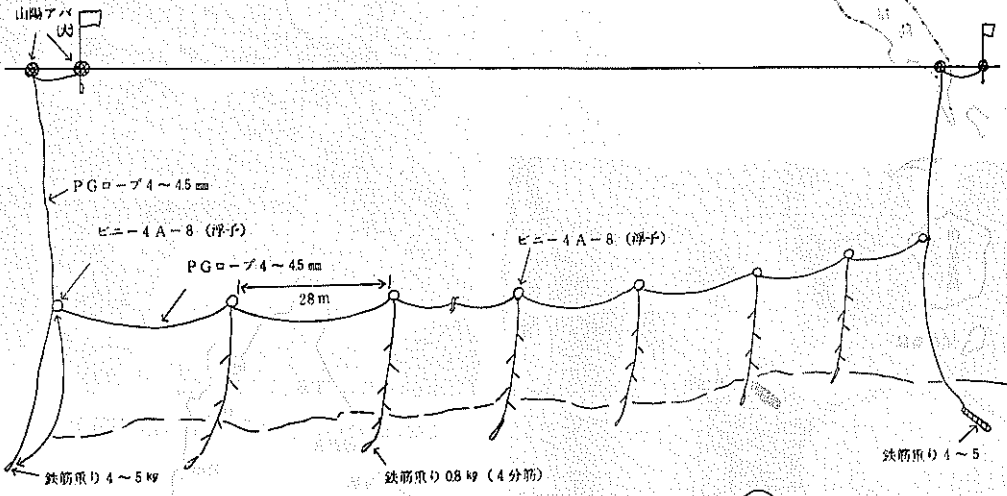


(12) 組合長を交え次の計画について話し合う

〔2000年〕 国頭の漁業委員会と関係 (1)
 乗船実地結果の分析会 (2001年)
 (日誌参照)

山陽アバ大 @4100
 鉄筋重り @ 110
 PGロープ4mm (2mm) @1500
 " 45mm (") @1750

ビニー4A-8 (浮子) @ 400
 SBCサルカンは @ 125
 スナップ 大



- タル型サルカン # 1 @ 620
- " # 2 @ 580
- " # 3 @ 520
- マルロン # 60 @ 950
- スナップC型大 @ 65
- 双袋サルカンのC型大 @ 65
- パロン大巻 @ 2000
- # 70 ~ # 90 kg
- ①むつ針 # 19 @ 350
- " # 20 @ 390
- " # 21 @ 430
- モーションテグス @ 4500
- # 08 kg

図-2 深海立延縄漁具の構成